

思春期の子どもをもつ母親の夫婦ペアレンティング調整

—母親の語りから—

加藤道代*

神谷哲司**

思春期の子どもをもつ母親は、父親に対してどのような夫婦ペアレンティング調整(拒否・否定・非難を中心とした“批判”と、支持・尊重・激励を中心とした“促進”)を行っているのかについて、6名の母親を対象とした半構造化面接を行った。その結果、母親の促進的調整は、「子ども(父親)の言葉や気持ちを父親に(子どもに)代弁する母親」「父子接触の機会をアレンジする母親」「父親に子どものことで相談・依頼する母親」「父親を立てる母親」「感謝する母親」に分類された。一方、母親の批判的調整は、「父親の対応に対する制止・修正者としての母親」「仲裁者としての母親」であり、父親の見えていない場面で、父子関係の仲介や仲裁を行っていることも示された。母親による促進行動は、父親が理解しやすく、夫婦が一致したペアレンティング行動に結びつきやすい一方で、批判行動の意図や真意は、父親に十分には伝わらない可能性があることが示唆された。

キーワード：コペアレンティング、母親仲介、父親関与、批判、促進

問題と目的

筆者らは、子どもをもつ父母が、子どもへの関与に関してどのように調整しあっているのか(以下、夫婦ペアレンティング調整)について検討するために、母親の父親に対する行動として、母親から父親にむけた拒否・否定・非難を中心とした“批判”と、支持・尊重・激励を中心とした“促進”に着目してきた。ただし、促進や批判自体は行動面ではなく、そうした行動が父親の子どもへの関与を増加・充進あるいは、減少・抑制するか否かという機能や作用面を含んだ概念ではない。例えば批判行動は、父親の子どもへの関与行動と有意な負の相関がみられるものの、相関係数の値は極めて低く、母親による批判は、必ずしも父親の子育て関与行動を抑制するとは限らない(加藤・黒澤・神谷, 2014)。したがって、母親の促進、批判行動が、父親にどのように認知されているのか、父親のどのような行動につながるのか、また、そもそも母親はどのような文脈で、どのような意図をもって当該行動をとるのかなどを理解するには、それらの行動をとりまく日常の子育てエピソードを丁寧に見ていくことが必要である。また、夫婦ペアレンティングの概念が欧米の coparenting をもとにしていることを鑑みても、日本における子育てエピソードを抽出することは重要である。

*教育学研究科 教授

**教育学研究科 准教授

戸田ら(2011)は、大学生を対象として、母親が子どもに対して父親に関する肯定的なメッセージを伝えたり、父子間での調整的な役割を果たしていること(母親の取り持ち機能)が、父子の結びつきを強めるための調節機能となっていることを指摘し、家族内コミュニケーションの要となる母親の機能を指摘した。ここでの母親の取り持ち機能は、母親が家族の楽しいエピソードを懐かしそうに子どもに話すこと、父親のことを嬉しそうに子どもに話すこと、父親をほめることなどによって測定されている。また板倉(2013)は、家族内コミュニケーションをサブシステム間の直接的コミュニケーションと間接的コミュニケーションの面から検討し、母子間で父子に関する情報伝達が頻回に行われるほど子どもの家族満足度が高いことを示した。Celik(2019)もまた、トルコの青年期男女を対象とした半構造化面接により、母親が父子コミュニケーションの橋渡し役となっていることを報告している。ここでの対象者は、「父親は自分に批判的に関わるため、何かあれば第一に頼る親密な関係である母親を通じて父親にメッセージを伝えている」と述べており、青年期の子どもは、母親の機能をむしろ家族コミュニケーションとして用いていることもうかがえた。これらは、いずれも子どもの視点からとらえた母親の調整行動であるが、中学生とその両親を対象とした平山(2001)の調査では、母親が父親の家庭関与をどう見ているかということが中学生の精神的健康に影響していることを示しており、思春期においても、母親は父子関係の媒介者として機能する可能性が示唆されている。

それでは、親の視点からは、家族内コミュニケーションは具体的にどう映っているのだろうか。殊に、子どもが自分の意思を不十分ながら表明し始め、親子関係に緊張関係が生じやすい思春期は、親子関係だけでなく、夫婦関係も含めた家族関係の再構築が求められる。従来の研究群は、大学生等、青年期後期の子どもを対象とすることが多いが、今まさに思春期の課題に直面する父親や母親を対象とすることで、親視点からの現実的、日常的なエピソードを収集ことができるだろう。

加藤・神谷(2019a)は、思春期の子育てについて、父親がとらえる母親による促進と批判エピソードを面接調査により抽出し、思春期の子どもの存在が、どのように夫婦ペアレンティングに関わっているのかに注目しながらまとめた。その結果、以下のことが示された。思春期の子どもをもつ家族において、父親に認知される母親の促進的な夫婦ペアレンティング調整行動は、「子どもの言葉や気持ちを代弁する母親」「父子接触の機会をアレンジする母親」「父親に子どものことで相談・依頼する母親」「父親を立てる母親」の4つの調整行動が分類され、いずれも父子関係の仲介役として作用していることがわかった。例えば、母親による“父親が子どもとの話題に困らないように、常日頃から子どもに関する情報を父親に伝える”、“父親と子どもがともに時間をすごせるような機会をアレンジする”、“子どものことで自分にはできないことを父親に依頼する”などのエピソードが、思春期の子どもと父親の距離を縮め、父親役割の尊重のメッセージとなって父親に自信を与え、父母間で子育ての喜びを共有しあうように機能していた。

一方、父親が認知する母親の批判的な夫婦ペアレンティング調整行動のエピソードからは、「父子衝突への割り込みとしての母親」「父親の対応に対する制止・修正者としての母親」「子育てに関する考え方の違いを間接的に示唆する母親」が分類された。母親の行う批判は、明確で直接的な言

動もあれば、非言語的暗示的なものもある。父親の認知する批判は、父親の関与を挫くことが多いが、子どもの問題を夫婦で直面化し方針を確認しあうような例も、少ないながら確認された。

加えてこの面接調査からは、思春期の親子関係の特徴も浮かび上がった。思春期の子どもの生活スケジュールは親同等に過密であり、親子のコミュニケーションの機会はかなり限られている。また、子どもの意思、感情、嗜好が明確になってきているため、乳幼児期のように大人主体で進めることができない。限られた接触時間に、最低限の生活上の注意や声がけを繰り返す親と、なかなか従わない子ども、子どもが従わなければ、さらに子どもを強く注意する親というやりとりの中、父母それぞれの子どもへの対応が、母親による促進・批判的調整の契機となっていた。また父親は、母子間(特に母娘間)の距離に比べて、また、児童期までの父子間の距離に比べて、相対的に父子間に距離ができたと感じていることもわかった。ただし、父親を対象とした面接調査結果のため、母親側の意図や感情についても検討し、併せて考察することが課題として残されていた。

これらを踏まえて本研究では、思春期の子どもをもつ母親を対象とした半構造化面接を通じて、母親から父親にむけた拒否・否定・非難を中心とした“批判”と、支持・尊重・激励を中心とした“促進”について、母親がとらえるエピソードを抽出すること、母親による夫婦ペアレンティング調整行動の意図を明らかにして、先行の父親回答を参考に考察を行うことを目的とする。なお、母親の行動が批判となるか促進となるかは、子どもの言動や態度によっても変わるため、その場面での子どもの反応や働きかけも重視しながら調査を行うこととした。

方 法

1. 調査方法と分析対象者

第一子が14, 15歳の子どもをもつ母親G, H, I, J, K, Lの6名(男児の母親3名, 女児の母親3名)を対象に半構造化面接調査を行った。就業状況はフルタイムが1名, パートタイムが5名であった。対象者は、第一子年齢と性別を条件として、(株)クロスマーケティングのリサーチ専門データベースの登録モニターから選定された。このため、面接者(第一筆者と第二筆者)は、いずれの対象者とも、調査時以前の面識はなく、調査時回答以外の個人情報をもたない。調査は2015年10月に実施され、調査に協力してくれた回答者には、調査会社を通じてモニターポイントが付与された。

2. 調査内容と手続き

父親の子育て関与に対する母親からの働きかけを検討するために作成された夫婦ペアレンティング調整尺度(6件法:加藤・黒澤・神谷(2014))は、母親版、父親版ともに、支持、尊重、激励を中心とした“促進”(9項目)と、拒否、非難を中心とした“批判”(7項目)からなる。本調査では、このうち母親版を、調査協力者の母親に回答してもらった後、“促進”と“批判”のそれぞれから、日常の子育て場面で思い当たる数項目を選んでそのエピソードを語ってもらった。その際、母親の批判行動が生じる経緯、父親の対応、エピソードの過程における子どもの様子、父母の感情、意図等を明らかにするため、面接者(著者2名)より適宜発問を加えた。面接内容は、ICレコーダに録音し文字

化してまとめ、エピソードのまとめごとにより抽出し、その内容を分類した。

促進項目は「夫が子どもにかかわるのを、励ましたり、促したりするために、あなたは次のようなことをどのくらい行っていますか?」、批判項目は「夫の子どもへのかかわりが、あなたにとって納得できないとき、あなたは次のようなことをどのくらい行っていますか?」という教示で回答を求めた。項目は以下のとおりである。

促進項目

- E1 夫に相手をしてもらっていることで、子どもがとても喜んでいと夫に伝える。
- E2 子どもの相手をしてくれてありがとうと夫に伝える。
- E3 夫がよい親だということを、夫が聞いているときに他の人に伝える。
- E4 夫が一人で子どもとかわる時間を持てるようにする。
- E5 夫をほめる(例「あなたは私より子どもの相手がうまい」)
- E6 手を貸してくれるように夫にお願いする。
- E7 子どものことについて、夫の考えを尋ねる。
- E8 夫と子どもと一緒に過ごせるように手配や準備をする
- E9 「あなたはよいお父さんだ」と夫に伝える。

批判項目

- C1 子どもに対する夫のかかわりで気に入らない行動を他の人に話す。
- C2 夫がやっていることを取り上げて、自分のやり方でやる。
- C3 怒っていることやいらいらしていることを、夫に対する態度や表情に表す。
- C4 「あなたのしたことは間違っていると思う」と夫に言う。
- C5 「お父さんおかしいよね」と子どもに向かって言うことで、間接的に夫に伝える。
- C6 夫を非難する(例「子どもの気持ちがわからないの?」)。
- C7 ムツとして、あきれた顔を夫にむける。

3. 倫理的配慮

本研究は東北大学大学院教育学研究科研究倫理審査委員会の審査と承認を得て行われた(承認番号15-1-016)。

結 果

1. 夫婦ペアレンティング調整尺度の得点と語りに選ばれた項目(表1, 表2)

促進については、E7「子どものことについて、夫の考えを尋ねる」が全員回答、E1「夫に相手をしてもらっていることで、子どもがとても喜んでいと夫に伝える」は4名、E5「夫をほめる」は3名が回答し、その他の項目に比べて多かった。批判については、C1「子どもに対する夫のかかわりで気に入らない行動を他の人に話す」とC4「あなたのしたことは間違っていると思う」が4名、C6「夫を非難する」は3名で他の項目よりも多かった。各自の平均点は、促進の場合は3.11 - 4.22であり、

批判は2.57 - 3.57であった(得点範囲は1 - 6)。

面接協力者は、ある尺度項目を取り上げてそれを契機に語るように教示されるが、語りは複数項目にまたがる内容に展開していくことが多い。そこで、父親を対象とした先行調査(加藤・神谷, 2019a)に依拠し、本結果についても、以後の分析は、協力者が選定した項目にかかわらず、語られた内容全体を詳細に見ることで浮かび上がる、父親と子どもそれぞれの行動に対する母親の調整機能という視点から分類を行う。

表1 母親による夫婦ペアレンティング調整行動(促進 E1 ~ E9)に関する母親の語りの生起

	子性別	E 得点平均	E1	E2	E3	E4	E5	E6	E7	E8	E9	その他
G	男	4.22	○				○		○		○	
H	女	3.11	○				○		○			○
I	男	3.44		○				○	○			
J	女	3.89	○				○		○	○		○
K	女	3.33							○			○
L	男	3.89	○			○			○		○	○

E1 ~ E9の中で語りがあった場合に○で表している。 得点範囲は1-6

表2 母親による夫婦ペアレンティング調整行動(批判 C1 ~ C7)に関する母親の語りの生起

	子性別	E 得点平均	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	その他
G	男	4.22	○							○
H	女	3.11			○	○		○		○
I	男	3.44	○			○				○
J	女	3.89	○				○	○		
K	女	3.33				○				
L	男	3.89	○		○	○		○		○

C1 ~ C7の中で語りがあった場合に○で表している。 得点範囲は1-6

2. 中学生親子のコミュニケーションに関する背景

母親から語られた親子のコミュニケーションの背景では、片付けや勉強等をきっかけとして、叱られる子どもと叱る親のエピソードがあげられた。特に、父親のしつけの厳しさとそれに対して萎縮したり口答えなどで抵抗する子どもの反応が父子関係の緊迫感(G, I, L)として語られた。親を遠ざける一方で無邪気に接近する子どもの行動(H, I, K)も指摘されている。

＃1 息子なんですが、片付けとか勉強とか嫌いでだらしない。そういうことに対して、主人が、結構きつい言葉で怒るので、子どもが萎縮してしまう。主人は土日が休みではないので、あまり関わる機会もないんですが、たまにいとだらしない部分がすごい目立つみたい。息子は、顔合わせるたびにいつも怒られるって、ちょっと引いちゃってる…(中略)…息子は、家族とあんまり出かけたりしたがらない。近場だと友達に見られたりするんで、もうあんまり親と一

緒にいるのは見られたくないみたい。(G)

#2 主人のしつけがかなり厳しいですね。まあ、かなり正当性があるので、私もあまり口出しはしないようにはしてるんですけども。子どもはやっぱり口答えするんです。そうすると主人も、「その口の利き方、誰に向かって言ってるんだ」って、ヒートアップしちゃう。(I)

#3 長男が散らかしをよくするんで、それに対して何回注意しても長男が聞かないと、出しっぱなしの本とかをザザッと捨てちゃうふりをしたことがあって。「ひどいじゃないか」みたいに言いあうってこともありました。長男もだんだん大きくなってくると、最近は言い返すように。負けなくなってきました。(L)

#4 あ、反抗期がきた一っっていう感じで。話しかけても無視したり、部屋に入るのを嫌がったり、父親母親どっちに対しても、「もう入ってこないで」って。やっぱり片づけたりするだけで、すごい嫌がります。でも夫婦で話し合うってことはそんなにしなかったですねえ…。ま、私が一人で心配してたっていう感じですかね (K)

#5 主人は帰ってくるのも遅いんで、家に一緒にいる時間が平日は1, 2時間とか…それぐらいしかない。買い物とかより外で遊んだりとかの方が多いですね。それでも、娘については行きますね。多分そんなに嫌いではないと思う、「学校には来ないで」とは言うんですけど、今日も、授業参観があったので。主人は初めて今日中学校に行ったんじゃないかな。普段は「こないで！」って言われるんで。(H)

#6 スポーツとかテレビを見ながら、夫と子どもと同じことして、子どもが喜んでたりとか、じゃれ合ってる時もあるんですよ。けんかも、じゃれ合って取っ組み合いをするときもあるんですけど、そうすると子どもも「やめてよ」って言いながら、やっぱり喜んでる姿を夫も感じてるので、私があえて伝えなくても夫はわかってる。「あいつはいじられたいんだよな」っていう風に言うので (I)。

#7 父親と娘がお互い話してる時に、こう、娘のお尻をぼーんって叩いたりとかして、「やめてよー」とか言われてね。子どもはお父さんに「おなか出てきたね」ぼんぼんみたいな感じで。そういう風な感じでちょっかいを出し合ってる感じですかね。スキンシップな感じ。(K)

3. 促進：父親の認知する、母親による父親への促進的夫婦ペアレンティング調整について

(1) 子ども（父親）の言葉や気持ちを父親（子ども）に代弁する母親 (L, G, J, I)

「E1 夫に相手をしてもらっていることで、子どもがとても喜んでいて夫に伝える」 「E5 夫を

ほめる(例「あなたは私より子どもの相手がうまい」)を契機に語られたエピソードでは、母親は父親と子どもの間で双方を仲介していた。父親が子どもに関与した時の子どもの反応を父親に伝える例(#8, #9), その逆に、父親の反応を子どもに伝える例(#9), 子どもが父親の考えを知りたがり父親の代弁をする例(#10)の他、父子のケンカの後、少し時間がたってから、父親の気持ちをソフトに伝え直す(#11)例もあった。なお、#11の母親は、批判のエピソードを語っているうちに、父親の言葉や気持ちを子どもに代弁するエピソードに変容していたことから、ここに分類するとともに、本稿の批判「仲裁者としての母親」のカテゴリーにも記載している。

#8 (お父さんが)公園に行ってサッカーの相手をやってくれたりする。そういう時は、子どもも「行くーっ」って。子どもが「楽しかったよ」って言うので、私も「喜んでるねー」ってお父さんに言うと、「だろー」って感じで、嬉しそうにしています。(L)。

#9 お父さんと行って子どもがすごい喜んでたんです。「久しぶりにお父さんと出かけられて、すごい喜んでたよね」とお父さんに言ったら、「なかなかね、一緒に出掛けたりとかできないから良かった」と言ってまして。同時に子どもにも「お父さんはいないけど、こういう風にあなただのこと考えてるみたいだよ」っていうのを伝えようとしている。(G)

#10 今、子どもが進路ですごい悩んで、情報を集めてるんです。そしたら、「パパは、どこに行ってほしいのかな」っていうんですよ。だから、「パパはやっぱ良いところじゃない?」って。(J)

#11 「お父さんの気持ちはこういう風なんだから、あなたももうちょっとこういう風に考えを変えてみたら」とか「あんたも言われちゃうのはしょうがないでしょ。そういう態度だからいけないんだよ」とか、ソフトに言い方を変えて子どもに伝えます。お父さんに言われた後、私だけいる時に子どもがちょこっと来て、後ろでなんかプラプラしたりとかしてるので。なんか言ってほしいのかなと。「うーん」みたいにふてくされて。たぶん私にちょっと救いを求めているのか。「間違っていないでしょ、お父さんの言ってることは」って言うと、「うん、わかってるけどさ、僕はお父さんじゃないからさー」って、「わかってるよ、それは。だけどね、やらなかったらどうするの、あんたずっとそのまんままでの」って言ったり。ほんとに正しいことを言われちゃってるから、それに対してもうふてくされるしかないんですね(I)。

(2) 父子接触の機会をアレンジする母親 (L, J)

「E4 夫が一人で子どもとかかわる時間を持てるようにする。」および「E8 夫と子どもと一緒に過ごせるように手配や準備をする」をきっかけに語られたエピソードからは、父子の接触場面を増やすために、父親が子どもに関わる機会をアレンジし、うまく運ぶように準備する母親の姿が浮かび上がった。さらに、自分がない父子だけの時間にすることで、現在の子どもの様子を父親に知っ

てもらいたいという気持ちがあることも語られた。

12 「最近、勉強どうなの？」ってお父さんが聞くこともあるんですけど、息子はあんまりお父さんの方を見ずに答えるみたい。塾も一人で行けるので、お父さんが長男に対して何かするってことが殆どなかった。私も、お父さんが仕事忙しそうだしと思うと。相談とかはしますけど、なるべく子どものことは自分でやりますし、旦那の方も割と私に任せる感じだったので。子どもたちが試合で、送迎をしなきゃならない場合は、なるべくお父さんに行ってもらうようにして、手助けをしてもらうようお願いしたり。そうやってだんだん慣れてってもらった方がいいかなとは思ってます。最初は、「えーっ、行かなきゃいけないの？」みたいな。でも子どもが何をしているかとかをあまり知らず、楽しそうにスポーツをしている場面も見たことが無かったので、そういうのを応援に行ったりすると、すごいなと思ったみたい。ビデオ撮影をしたりとか、その競技をテレビで見るとなったり、新聞に載っているのを見つけると、子どもが見るかな？っておいておいたり。(L)

13 土日とかに、敢えて私が友達とご飯食べに行く日を作る。家にいると、子どもは私と話をするけど、夫はいつもいないから、話がわかんない。だから私がない方が話が出るっていうか。「今日何の話をしたの？」って聞くと、子どもは「なんだっけ」ってくらいなんですけど、でも他愛のない会話も私があると話づらいから、いいんじゃないかなって思って…お金がかかるものは、子どもに「パパに言って、一緒に見に行ったら？」って。こういうのが欲しいんだとかって言うのが、コミュニケーションになると思うし、(J)

14 私と子どもは一緒の時間があるけど、お父さんと子どもって（これから一緒の時間が）無くなるかなって思って、「2人でスキーに行ってきたよ」って。「え〜」って子どもは言うけど、「ほら、スキーしたいでしょ。パパもきっと喜ぶよ」って。私がない方が2人で話が出るっていうか。(加藤・神谷, 2016) (J)

(3) 父親に子どものことで相談・依頼する母親 (I, G, H, J, K, L)

「E7 子どものことについて、夫の考えを尋ねる」を契機に話されたエピソードは、全協力者から語られ、エピソード数としても最も多かった。得られたエピソードの内容は、母親から父親への相談行動だけでなく、「E6 手を貸してくれるように夫にお願いする。」を含んでいた。母親が、学習、成績、受験や進路の話題やしつけの話題など、大事な決定を父親と共有しようとする相談や、母親自身ではうまく対応できないことに、別の視点や対応を期待する相談がみられる。

15 私にはやっぱり男の子の気持ちとか分からない部分もあるんですね。家で何かあったときは、主人に「どうしたらいいかな」みたいな話はよくするんですけど。大体は塾や勉強に関する

ること。どうすればやる気が起きるのかなとか、塾に通わせて成果は出るのかなとか。あとは怒り方。優しく言ってもきかないし、ガツンと怒られると一瞬は直るけど、そのあとはまたやらなくなるので。どういう風に仕向けていけばいいか。…やっぱり自分の考えと違う意見ももらえたりもするので、そういう考えもあるんだなあって頼りになる。(G)

#16 勉強のこと。下の子が小学校6年生なんですけど、主人は学区の中学校しかないと思って、私は他の中学校も見に行きたいって言ったら、日曜日つきあってずーっと回ってくれて。最後にお茶飲みながら話し合ったんですね。私の気の済むまで見て回ってくれて、その時は嬉しかったんですね。いままで塾を選ぶにも何を選ぶにも、全部私と子どもで見学に行っ決めてたので。(H)

#17 進路の事ですね、どこら辺の高校を目指すかっていうところで、主人とも相談はしてるんですけど。何しろ当の本人にやる気がないので、どうやってやる気を出させるかで、主人も頭を悩ませてまして。「勉強しないならしないでもいいよ」って子どもに伝えるか。「でもそしたら、ろくなところに就職できないよ、それでもいいのか」って言ってきかせるか。いろんなパターンを考えて、二人で試行錯誤で話しています。(I)

#18 転校で子どもがなかなか環境に馴染めなくて、その時は夫に相談したら話を聞いてくれて、アドバイスをくれるっていう感じですね。先生に手紙を出したりとか、行動するのは私なんですけども、どんなことを先生に伝えるとかは。相談したり。…(子どもが)携帯をずーっとやって勉強しなくなったことがあって。あたしだとかわいそうだと思って甘くなっちゃうので、言っても聞かないんですけど、夫に相談したら携帯を取り上げて、契約を解除したんですね。娘は最初は反抗したんですけども、反省して今はルールを作って控えるように。なので厳しくやったことがよかったというか、まあ夫に言ってよかったかなと思ったんですけども。(K)。

#19 受験生でもあるので、志望校決めるのに、本人の意向ももちろんなんですけど、どう思う？みたいな。…で、子どもと夫がまたそこで意見が合わなかったりはしています。…習い事のお値段が高かったりしていたので、ちょっと大変だねって。だけど、好きでやっているし、将来そっちをやりたいみたいなことも言ってる、みたいな相談をしたり。(L)

(4) 父親を立てる母親 (J, G, H, K, L)

「E1 夫に相手をしてもらっていることで、子どもがとても喜んでいて夫に伝える。」「E3 夫がよい親だということを、夫が聞いているときに他の人に伝える。」「E5 夫をほめる(例「あなたは私より子どもの相手がうまい」)」をきっかけに語られたエピソードから、母親が一段下がって父親を立てている場面、とすれば希薄になってしまう父親の存在を子どもに伝えて父親を立てる場

面があげられた。父親がいる場面だけではなく、不在の場面で子どもに伝えられていることもある。

20 夫が仕事ですごい忙しいので。朝早く出かけて、帰りすごい遅くて、休日も休めないことが多い。子どもと接する時間も少ないので、だから、まあそうですね…、昨日は何時に帰ってきたよとか、そういう感じの話を娘に話しますね。(K)

21 「お父さんが(子どもの活動に関係した)雑誌を置いといてくれたよ」, っていうのは、私が子どもに言ったりします(L)。

22 お父さんは、子どもたちの前では厳しい面を見せるところが結構多いんですけど、あんまり会えない分、「〇〇が欲しいって言ってたから買ってきてあげればいいじゃない」とか、「今日、△△の本の発売日だよ」とか、私が気づかない子どもたちのことを言ってくれたりする。私は子どもと一緒にいるのは長いんですけど、気づかない部分もあるので、そっかー、と思って。でも、結局子どもたちを買ってあげるのは私になっちゃうから、「お父さんに言われたから買ったんだ」っていうのは、子どもにちゃんと伝えて。怖いだけじゃないんだよっていうのはちゃんと分かってほしいなっていう私の気持ちなんですけ。怒るとやっぱ怖いんで、「やだ、お父さん」って思われるとかわいそうじゃないですか。いろいろ考えてくれているのに。(G)。

23 子どもはパパが作るお好み焼きがすごい好きで、「ああ、パパが作ったお好み焼きが食べたいなー」って言ってたんで、パパと子どもと一緒にいる時に、「ママはお好み焼き上手じゃないからね」とか、「パパの方が美味しいからね」って言って。(J)

24 子どもの誕生日で親戚を呼んだ時に、主人が料理を全部作ってくれたんです。「すごくおいしいねー」って言ったたら、子どもも親戚も「おいしい」って言って。みんなが褒めてくれたんで、すごい喜んで。(H)

25 同級生に「どんなお父さんなの?」と聞かれたんで、「休みの日はすごい面倒を見てくれて、遊びに行ったり、まあ、自分の好きなことや楽しいことで遊んでるんだけど、遊びに一緒に行ったりしてくれる」って話したんですね。主人はもうニコニコして。ああ嬉しいんだなって思いました。(H)

(5) 感謝する母親 (I, L, G)

「E2 子どもの相手をしてくれてありがとうと夫に伝える。」「E4 夫が一人で子どもとかかわる時間を持てるようにする。」「E5 夫をほめる(例「あなたは私より子どもの相手がうまい」)」E9 「あなたはよいお父さんだ」と夫に伝える。」から、母親が父親に感謝するエピソードが語られた。

26 すべて「ありがとう」は、「いつも悪いね」って言います。「食事のこともお弁当も悪いね」、「いやいや別にー」みたいな感じ。私は女性として申し訳ないなって気持ちもあり、「ほんとは私がやらなきゃいけない部分なのに」と言う、「いやいや別にいいから」みたいな感じでさらっと流してくれるので。夫はいばるとか、やってあげてるっていう感じを表面に出すタイプでもないの。(I)

27 「よくしてくれてるね」とはいいます。子どもにすごく向き合ってくれてるので、それはすごくありがたい。多分あたし1人では、ほったらかしにしてしまうところを、主人がすべてそこらへん子どもに対して向き合って、「あいつ今何やってんだって、なんだ、ぜんぜん勉強してねえな、机に向かっているだけで」とか。(I)

28 手助けをしてもらうようお願いして、もしそうしてくれた時は感謝を言います。…あまり私が詳しくないサッカー関係のことを探してきたりするので、そういう時も「よかったよかった」と夫に伝えます。(L)

29 感謝の気持ちを伝えたいなあ、といつも思っています。仕事も結構朝早くから夜遅くまで頑張ってくれているので、「本当に大変だねとか、ありがとう」とか。細かいことに気づいていつもやってくれるので、結構日常茶飯事に「ありがとう」と。…子どもたちの細かいことに気付いてくれるのね。会えなくても、一緒に子育てをしてる感はずいがあるの。「いいお父さんだよー」って言う、「だよ。でしょ？」みたいな。(G)

4. 批判：母親の認知する、母親による父親への批判的夫婦ペアレンティング調整について

母親による父親への批判エピソードは、「C1 子どもに対する夫のかかわりで気に入らない行動を他の人に話す。」「C4 『あなたのしたことは間違っていると思う』と夫に言う。」「C6 夫を非難する(例「子どもの気持ちがわからないの?」)。」とその他をきっかけに語られた。

(1) 父親の対応に対する制止・修正者としての母親 (G, H, I, J, K, L)

「C4『あなたのしたことは間違っていると思う』と夫に言う。」や「C6 夫を非難する(例「子どもの気持ちがわからないの?」)。」をきっかけとして、母親が父親に対して直接はっきりと意見を述べるエピソードが示された。いずれも子どもの叱り方に関わるものだが、母親自身に明確な方針があって父親を批判する場合(H, I, L)と、子どもの味方になって父親を批判する場合(I, J, K)、子どもの前で父親に意見を述べる者もあった(H)。

30 (父親が子どもに厳しいので母親が意見すると)「そんなに怖いかな」みたいな。ちょっとさ

みしそうに。「他のお父さんはそんなに怒ったりしないのかなあ」みたいなことを。やっぱり本人も、反省じゃないんですけど、一応言い過ぎたなって、わかってるんだなって思って、ちょっとは安心したというか。(G)

31 私が叱ってる時に、主人が横から重ねて叱る時があって、「いま私が話してるんだから、言わないで！」みたいに言います。すると、黙ってちょっとむっとしてますけど。前も「両方で怒るとかわいそうだから。私は怒ると結構止まらなくなるんで、そういう時は子供の味方をしてほしい」って話してるんですけど、また忘れてる。話した時には「分かった」とは言いますが、多分我慢できなくなるんだと思うんですよね、横で聞いてて、自分も腹が立ってくるんだと思うんですよね。(H)

32 子どもの目の前で、はっきりと夫を止めるしかないのかなと思って、直接本人に、「それはちょっと違うんじゃないの。言い過ぎなんじゃない」と言ったりします。お小遣いあげてスキシップというの、お金と交換みたいになってる感じで、「それはどうなの？」って。本当にやめてほしいなって。(I)

33 子どもに「出てけ」というのは言ってほしくないのに、「それはよくない」と直接言いました。それに、「泣いている状態で言ってもしょうがないのに、それがわからないの？」「口調がちよっと厳しいから、柔らかく言うように」って言ったことはあります。/ 仕事が忙しいのか、旦那がイライラしてる事が多くて、それを子どもに当たっちゃってるかなって時は注意します。しつこかったりとかするので。(L)

34 男の子なので、主人と二人で取っ組み合いになったりするんですよ。どうしてもまだ子どもの力が弱いので、「そこまでしなくていいじゃない」って私が言うんですね。二人の時だけに話をしたことはあるんですけども、夫は「こいつが言うこときかないからいけなないんだよ」って。子どもになかなか伝わらなくて、主人がいつも苦労してるのを私も見てますので、気持ちにはわかるんですけども、私も母親なので、「それはわかるけど、そこまではやりすぎでしょ」って。(I)

#35 女の子で、お父さんとあまりべたべたするのは嫌がる。でもお父さんは子どもが好きだからくっついていこうとする。もう思春期だから、嫌がられないように気にすれば良いのって、私はちょっと呆れた感じで。小学生の時は、まあ渋々距離をとりながらって感じだったのが、中2になって、「ほんとにやめて」に変わってきて。でも懲りずにやるので、私も「本当にやめてあげたら」って。(J)

#36 いつも成績悪いんですけど、定期テストで平均点以上取れたってことで、子どもが喜んで父親に教えたんですね。でも父親は「当たり前だ」と返してしまったみたいで。子どもは褒めてもらえると思ってたらしくてですね、「お父さんにこう言われた」って言うので、「頑張って平均点取れたんだから褒めてあげて」って夫に言ったんですね。夫は、いつも出来ないことを知らなかったみたいで、少し反省してる感じでしたね。(K)

(2) 仲裁者としての母親

「C4『あなたのしたことは間違っていると思う』と夫に言う」をきっかけに、父子の間に立って両者を仲裁する母親のエピソードがあげられた。なお、#37の母親は、批判エピソードを語り始めたが、後半は父親の言葉や気持ちを子どもに代弁するエピソードに変容した。全体としては「仲裁者としての母親」のカテゴリーとして適切であるため、ここに分類するとともに、本稿の促進「子ども(父親)の言葉や気持ちを父親(子ども)に代弁する母親」のカテゴリーにも記載した(#11)。

#37 たぶん子どものキャパはすごく狭いんだと思うんです。なので、もう、自分の頭の中で整理がつかなくなってしまうのかなって気はするんですね。だから、批判というよりは、なんか仲介のために、夫にも言わざるを得ないようなところっていうのがたくさんあるんですね。そして、言い方を変えて子どもにも伝える。まあ、確かに子どもも悪いんです。うそをついたりとか、ちょっと反抗的な言葉遣いになったりとかするので、それはあんたも良くないよって私も言うんです。「お父さんがああいう風に言ってたんだから、あなたもうちょっとこういう風にしたら」とか、「お父さんの気持ちはこういう風なんだから」とかちょっと言い方を変えて、ソフトに子どもに伝えたりします。例えば、ちょっと日をおいて、私だけの時にちょこっと来て、後ろでなんかブラブラしてるので。なんか言ってほしいのかなって時に、「昨日、お父さんにも言われたけど、あんたももうちょっとよく考えなさいよ」って言うと、「うーん」みたいにふてくされて。たぶん私にちょっと救いを求めてるっていうか。夫の言ってることが間違っていないのは子どももわかってる。正しいことを言われちゃってるから、もうふてくされるしかないんですね、本人としては。(I)

#38 子どもの言い方が冷たい時に、お父さんがちょっとかわいそうだなとは思うんですけど。でもそういう年齢だからしょうがないのかなっていうのもある。もうちょっと、お父さんに優しくしてあげれば？って思うこともある。ちょっとかわいそすぎるなって思った時には夫寄りになるし、それでもお父さんが子どもにしつこくやるんだったら、もう本当にかわいそうだからやめたらって思うし(J)

#39 散らかしてる場合は長男が悪いので、私もお父さんと一緒に、「片づけないからでしょ」みたいに言います。そうすると、しぶしぶ片付け始める。でも、あんまり厳しいと、つつい夫

の方にも言ってしまう。私が子どもの味方になっている時は、ちょっと夫がやだなって顔もしますけど。本当はパパが子どもと話せば良い事。子どももパパがこんなに自分の事を考えてくれるって思ったりするだろうし。(L)。

40 私が、「子どもがこう言ってる」とか、「こう思ってるんだって」って言っても、夫は聞いてくれない。子どもも全部をパパに言えないみたいな感じがあって。だから子どもとのコミュニケーション不足だという事は何回も言ったんですけど。(J)

(3) (少数例) 母子連合 (J)

「C1 子どもに対する夫のかかわりで気に入らない行動を他の人に話す」および「C5 『お父さんおかしいよね』と子どもに向かって言うことで、間接的に夫に伝える。」をきっかけに、子どもと母親の距離が子どもと父親との距離より近いことが語られた。ただし、該当例は1名であった。

41 子どもたちが大きくなってきたので、パパのことにしても、私の仕事であったことにしても、子どもとはよく話をするんですけど。まあはっきり言って夫に話をしてもしょうがないっていうか。なんか子どもにはわかってもらえるっていうか。夫の悪口みたいになると良くないかとか、自分の苛立ってることを話すのが全部いいかっていうのはあるんですけど、でもなんかとりあえず、いろいろ何でも話そうと思ってて。子どももパパが嫌なこととかも言ってくるんですけど(J)。

42 朝、すごい忙しいときに、夫が捜し物してて、私は別のことやってるのに、「なんで一緒に探してくれないんだ」ってい言うんですよ。そういうのを子どもが見てて、最近、ササッと一緒に探してるんですよ。「偉いね」って言ったら、「だってさ、なんか文句言うじゃん。後で面倒臭いじゃん」って言うんですよ。それが、ちょっと夫がかわいそうだなって思ったり。(J)

(4) (少数例) イライラを間接的に示唆する母親 (H)

「C3 怒っていることやいらいらしていることを、夫に対する態度や表情に表す。」や「C4 「あなたのしたことは間違っていると思う」と夫に言う。」をきっかけに、父親に向けて間接的にイライラを表出するエピソードが語られた。ただし、該当例は1名だった。

43 高学年になってくると、日曜日でも塾なのに、「行くぞ」って出かけたとか。まあ、子どもと関わってくれてうれしいんですけど、子どもは、帰ってきてから勉強始めても、夜11時ぐらいになっちゃうみたいな感じで。私も平日働いているから家事をしたいので、帰ってきてから、結構イライラしたりっていうのがありますね。遊んで疲れて帰ってきて、私はやることいっぱいあって、なんか溜まったもの、洗濯物とか洗ったりとか。でも主人は、疲れて座ってテレ

どとかぐでととするじゃないですか。だから結構私、子どもに当たってるんじゃないかなとは思いますが…。イライラしてると、勉強見ても、口調もきつくなるし、「早くしなさい、何分かかってんのよ」って言っちゃってるんじゃないかな…と思いますね。(H)

5. 母親のサポート源 (G, H, I, K, L)

母親は、子どもや父親への対応について、周囲の母親仲間や職場仲間によく相談をし、仲間や先輩から助言をもらったり、「大丈夫」と言ってもらえることで励まされていた (K)。

44 私は、主人の子どもに対する対応を見てて、ちょっと言いすぎなんじゃないかなとか思ったりもするんですけど。お母さんたちは、「その方がいいんじゃない、うちは旦那何も言わないから。お父さん怖くていいね」と言ったりしてくれるので、うーん、良いことなのかなあ、って。(G)

45 職場の先輩だとか友達に、ちょっと夫の愚痴を言ったりします。先輩とかにいうと、主人が子どもに対して言って聞かせることに、その場で私が追い打ちをかけて言ったりすることは、子どもがかわいそうだからやめなって言われます。「二人して子どもを攻撃したりすると、子どもが行き場がなくなってしまうから、私は私っていうポジションでいたほうがいいよ」と言われます。(I)

46 友達に話したら、「それは大事だよね」って。自分が思ってることも、友達が「そうだよね」って言ってくれるので、やっぱりそれでいいんだな、ってあらためて思ったりとか。(J)

47 うちの子はほんとにもう、恥ずかしいくらいできないんですよ、だけど、先輩(の母親)に相談すると、「そんなの、みんなこの子だって一緒よ」って言われるんですよ。(I)

48 私、仕事場の人に相談して。やっぱり反抗期があるのは当たり前だとか、ないと困るとか
そういう話を聞いて、まあ成長の一部だと思って、心配しながらもそんなに気にしないようにして。今はだんだん落ち着いてきたっていう感じですね。(K)

考 察

本研究は、思春期の子どもの発達的变化や日常の問題に関して、母親が父親の子育てに関して行う夫婦ペアレンティングの働きかけをめぐるエピソードを抽出し、母親はその働きかけをどのようにとらえているのか、促進的・批判的調整行動の意図や背景はどのようなものかを明らかにしようとした。その際、父親と母親の役割が、夫と妻役割間の交流に紛れることのないように、思春期の子どもの存在が父親と母親のやりとりでどう関わっているのかに注目することを重視し、批判・促

進の2側面を問いの切り口として、母親にエピソードを語ってもらった。

なお、父親が認知する母親からの批判と促進をまとめた先行研究があるが(加藤・神谷, 2019a), そこでの父親協力者と、本調査の母親協力者は夫婦ペアではない。またいずれも協力者数が少ないこともあり、双方のデータから夫婦ペア間の相互交流を同定することはできないが、父親視点と母親視点から夫婦ペアレンティング調整機能を理解するために、先の父親調査を参考として以後の考察を進めたい。

1. 中学生親子のコミュニケーションに関する背景

母親が語る父子の日常の交流は、子どもの性別によって差異がみられた。父親-息子のコミュニケーションは、片付けや勉強等のことで厳しく叱る父親と叱られる息子のやりとりが集中的に語られた。子どもの反応は、「萎縮して引く(#1)」、「口答えする(#2, #3)」、「答えない(#3)」など、父親と対等に口答えしたり、抵抗をしているようである。一方、娘の場合は、「話しかけても無視する(#4)」、「部屋に入るのを嫌がる(#4)」、「学校に来ないでと言う(#5)」など父親を遠ざける面と、「外で遊んだりするのについて行く(#5)」、「父親と喜んでいたりじゃれあってる(#6)」、「ちょっといを出し合ってスキンシップ(#7)」など、接近し合う両面があることが指摘されている。

思春期の親子コミュニケーションについて、父親の語りからは、特に母娘の親密な関係にうまく入っていきず距離をとってしまうこと、また、父親が父子関係に感じる距離感は、母子関係の距離の近さとの比較とともに、思春期以前の父子関係の距離の近さとの比較という、2つの比較に裏打ちされていること、そこに父親の孤立感や寂しさの感覚も存在することが語られていた(加藤・神谷, 2019a)。こうした父子コミュニケーションの様子や父親孤立への懸念も含め、母親がどのように調整行動をとっているのかという視点を踏まえて、以下、母親の促進、批判を考察していきたい。

2. 促進: 母親の認知する、母親による父親への促進的夫婦ペアレンティング調整について

思春期の子どもをもつ家族において、母親の促進的な夫婦ペアレンティング調整行動のエピソードから、以下の5つの母親の機能が浮かび上がった。「子ども(父親)の言葉や気持ちを父親に(子どもに)代弁する母親」「父子接触の機会をアレンジする母親」「父親に子どものことで相談・依頼する母親」「父親を立てる母親」「感謝する母親」である。

(1) 子ども(父親)の言葉や気持ちを父親(子ども)に代弁する母親

母親は、そのまま放っておくと距離が出来てしまいそうな父子の間にたって、両者を仲介していた。父親は、自分の関与に対する子どもの肯定的な反応を伝えてもらうことで、嬉しいだけでなく、子どもとのコミュニケーションはこれでいいのだという自信を感じることができる。普段は子どもに厳しく対することが多い父親だが、母親は父親の言葉や態度の真意を子どもにも伝えようとし、時には、父子ケンカの仲裁の役目も行っている。#11では、ケンカのほとぼりが冷めて落ち着いた頃、母親が子どもの気持ちも汲みつつ父親の気持ちを子どもに言い聞かせている。子どもも、母親が父

親の代弁者となつてとりなすことによって、比較的冷静に、言われたことを受け入れている。

加藤・神谷(2019a)によれば、母親が子どもの気持ちを通訳してくれるので助かるという父親の語りは聞かれたが、父親の言葉を代弁して子どもに伝えていることを指摘する語りは聞かれていない。代弁者としての母親の促進は、「子→母親→父親」方向では父親に認知されやすいが、「父親→母親→子」方向の認知は、父親と母親間のコミュニケーションに依存すると思われた。

(2) 父子接触の機会をアレンジする母親

母親は、思春期の父子コミュニケーションを意識して、その距離を接近させる機会を意識的に用意していた。「私と子どもは一緒の時間があるけど(#14)」からは、父子の対話は少ない、あるいは次第に無くなるだろうと考えていることがわかる。

父子接触を持ちかける方法は、母親が、父親に「手助けしてもらおうようお願い(#12)」したり、子どもに提案(#13, #14)することによっている。父子ともに最初は抵抗もあるが(#12の父親, #14の子ども)、#12の父親は、設定された機会(子どもの試合の送迎)を通じて、子どもの新たな一面を知り、父親が出来ることを自ら探し行動するなど、子育てへの自我関与が高まっている。ただし本結果からは、母子関係の接触頻度の高さや距離の近さに対して、父親が孤立感や寂しさを感じていることについて、母親がどの程度意識しているかは不明であった。他方で、遠ざかりがちな父子関係の間にとって、母親が父子2者間のコミュニケーションの機会を増やす工夫をしていることは明らかであった。敢えて「私がない方が(#13, #14)」と母親不在の場面を設定するのは、親密な母子関係の再現ではなく、いかに「他愛のない会話(#13)」であっても父子2者の接触を用意する必要性を、母親が強く感じているからだろう。

(3) 父親に子どものことで相談・依頼する母親

母親から父親への相談や依頼の内容は、進路、しつけの話題など、重要な決定や判断に関することが多く、全員からエピソードがあげられた。2人で試行錯誤しながら進めていくような相談(#16, #17)や、父親の出番を頼りにしている例(#15, #18)も見られた。常日頃、母親がどの程度独力で子どもに対応しているかにかかわらず、母親がひとりでは困難な状況に対して、父親が積極的に関与してくれたことを喜ぶ母親の語り(#16)や、「頼りになる(#15)」,「嬉しかった(#16)」,「夫に言って良かった(#18)」等、二人でともに子育てを行うことが実感される機会となっていることがうかがえる。

(4) 父親を立てる母親

母親は、普段は子どもとの接触時間が少ない父親の存在を、出来る限り子どもに伝えようとする調整行動を行っていた。子どもに接することが出来なくても、父親は子どものことを考えてくれていること、行動してくれていることを伝えることで(#21, #22)、父親を尊重する姿勢を子どもに示している。あるいは、父親が子どものために行って上手くいったことをとりあげて、父親の力、

特技として子どもや周囲の人に伝えている（# 23, # 24, # 25）。その際、母親より父親の方が上手いなど、相対的に父親を立てて子どもに伝える場面も見られた（# 24）。父親にとっては自分の行為が褒められ動機づけされる促進体験となり、子どもにとっては父親を重要な存在ととらえることにつながる。こうした母親による調整が、父親の目の前でなされれば、父親には伝わりやすく、実際的にも父親が喜ぶ姿が報告されている（加藤・神谷, 2019a）。しかし父親のいないところで、母親が子どもに向けて父親の存在を伝える行動を、父親がどれほど認知しているかは不明であった。先の代弁者の役割と同様、ここでも、父親と母親間のコミュニケーションの質が問われるだろう。

(5) 感謝する母親

「感謝する母親」は、多くの母親から語られた。父親の語りでは、「子どもの言葉や気持ちを父親に代弁する母親」のカテゴリーの中で、子どもの喜ぶ姿と母親の感謝が同時に語られるため、独立カテゴリーとしては抽出されなかった（加藤・神谷, 2019a）。しかし実質的には、父母ともに母親の感謝は意識されていると考えることができる。

母親の感謝の内容は、母親には出来ないことをやってくれることや（# 27, # 28）、仕事で大変な一方で子どもたちの細かいことに気づいてくれること（# 26, # 29）への感謝であった。「ありがとう」とダイレクトに口にする場合もあるが、「いつも悪いね（# 26）」「よくしてくれてるね（# 27）」「よかった、よかった（# 28）」「いいお父さんだね（# 29）」などを感謝の言葉として使う。こうした母親の“感謝”の気持ちに対して、父親は、「いやいや別にいいから（# 26）」、「だよ、でしょ？（# 29）」など、面と向かって感謝された照れもあつてか、軽く流しているようでもある。

3. 批判：母親の認知する、母親による父親への批判的夫婦ペアレンティング調整について

母親は、父親本人に面と向かっての非難や意見であれ、他者に向けて話される父親の非難であれ、明確に言語化する事を自覚しており、自らそのエピソードについて語ったが、非言語的な批判を指摘した者はわずかに1名のみであった。

(1) 父親の対応に対する制止・修正者としての母親

先述のとおり、思春期の子どもの性別により、子どもに対する父親の対応には違いがあることがうかがわれ、特に息子に対して厳しく対峙するようであった。男子の母親からは、父親の厳しさに対して、「言い過ぎ（# 30, # 32）」「やりすぎ（# 34）」「それはよくない（# 33）」という言葉が聞かれ、直接的に父親を制止していることが語られた。母親による父親への制止は、夫婦の会話の中で行われることもある。しかし、「子どもの前で、はっきりと夫をとめるしかない（# 32）」という言葉もあり、子どもも含んだ家族全体のルールとして、子どもにも父親にもメッセージを伝えることを重視する母親の姿勢は印象的であった。一方、女子の母親は、「（父母両方で怒ると）かわいそう（# 31）」「やめてあげたら（# 35）」「褒めてあげて（# 36）」など、父子関係での制止に比べるとやや穏やかな提案のニュアンスを含んでいる。

いずれにしても、父親を諫め制止する母親は、日常育児の中で見てきた子どもの姿や父親の関わりを土台にしながらも、一歩離れたところから父子を俯瞰するような、より客観的な立ち位置をとっている。思春期の子どもの自己表現に対して反射的に反応する父親や、子どもが成長したにもかかわらず従来からの関わり方を通す父親に対して、明確に批判することへの迷いは感じられなかった。

こうした母親からの厳然とした批判を受けると、父親は、自分の考えをそれ以上表明するのを辞めると語っている。そこには、母親が子どもの学習やしつけに懸命になる母子の距離の近さに対して、敢えて少し距離を置く父親の姿もあった。ただし父親が自分の考えを持っていたとしても、母親に強く主張したり議論することを選ぶことは少ない(加藤, 神谷, 2019a)。

(2) 仲裁者としての母親

(1)の「父親の対応に対する制止・修正者としての母親」と同様に、「C4『あなたのしたことは間違っていると思う』をきっかけに語られた批判行動エピソードでは、父子の間に立って両者を仲裁する役割が示された。ここでの母親は、父親から子どもへの対応について父親を批判するだけでなく、子どもから父親への反応について子どもを批判している。「夫にも言わざるを得ない…子どもも悪い(#37)」というように、父子間の双方を諫めたり、取りなしたり、一方の味方をしたかと思うと他方の味方となり、両者の関係調整をしている。またそれとは別に、直接コミュニケーションが希薄な父子の間で、両者を取り結ぶ調整を試みる例もみられた(#40)。

なお、面接時の母親たちは、批判エピソードを語り始めたはずが、結果的には、父子間を取り結ぶ“代弁者”の促進的調整行動を表す語りにつながっている例(#11, #37)が認められた。このような促進と批判の交錯の例は、ある場面では批判行動として示されても、その背景の意図は、子どもや父親を単純に“批判”するためのものではなく、家族を総体としてまとめるための仲介、仲裁、緩衝、斡旋、調停など多彩な機能の一部として批判的行動が表出された可能性を示唆している。

(3) (少数例) 母子連合

1例ではあったが、「夫に話をしてもしょうがない」「子どもにはわかってもらえる」「子どももパパが嫌なこととかも言ってくる」など、母親が、情緒的にも行動的にも子どもに接近する母子連合傾向の例がみられた。ただし、例示された母親は、母子連合を自覚しつつも、父親の悪口は良くないと思ったり、子どもが父親を軽視すると逆に父親をかわいそうに思う(#44, #45)など、父親の孤立に対しては不全感も感じている。また、他の場面では、父子間の仲介役としても行動しており、完全な母子連合と言えるほどではない。したがってここでは、家族内の一部成員による連合化により、残された成員の排除が生じる可能性を示す例として参考としたい。

(4) (少数例) イライラを間接的に示唆する母親

母親からは、父親を直接的に言語で批判するという語りが多く、イライラを非言語的に表出する場面や、父親への批判を子どもに向けて代理的にぶつけてしまうことを述べた例はわずかに1例で

あった。しかし、父親からは、母親が表情や雰囲気などに表した否定的なメッセージが伝わってくると認知する回答が少なくない(加藤・神谷, 2019a)。そうした非言語的な批判に対して、父親は母親の批判の理由や原因を推察し、それ以上の自己主張を抑える傾向があることがわかっている。

母親が自身の非言語的な批判を自覚していないとすれば、父親が敢えて主張を控え我慢した点についても、母親は気づいていないかもしれない。もちろん視点を変えれば、母親の非言語的な批判も、気づいた父親の非主張的な態度も、その場が陰悪にならないための葛藤回避とも考えられる。しかし、夫婦間の問題場面における回避の関係維持は、個人内で完結する行動であるため、配偶者への影響力が認められず、夫にとっても妻にとっても、自身の結婚満足度の低さと関連するのみであることから(黒澤・加藤, 2014)、頻回で長期的な回避は、有効な努力とは言い難い。

4. 母親のサポート源

子育て中の母親が、同じ様に子どもを育てる母親のサポートを受ける、あるいは相互にサポートし合う(加藤, 2007)ことはよく知られている。例えば、家族によるサポートと友人によるサポートでは、その機能や効果が異なるように(稲葉, 1998)、人は、手を借りたいや目的、負担の大きさに合わせて、ある特定の社会関係にサポート機能を特化し分化させて使い分けている(Fischer, 2002, Wellman, 2007)。本結果からは、思春期の子育てにおいても、母親たちは、自分や父親の子どもへの対応について、周囲の母親仲間や職場仲間によく相談をし、具体的な助言を得て励まされていることがわかった。他方それは、周囲に子育てをする母親仲間が期待できなければ孤立しやすいということでもある。思春期の子育てを支えるサポートネットワークについては、今回は、副次的に得られた結果であるため、SNSを通じたネットワークの普及や女性の就業状況の多様化などを考慮しながら、あらためて検討する必要があるだろう。

まとめと総合考察

夫婦ペアレンティング調整行動の促進について、母親から得られたカテゴリーは、概ね父親が認知しているものと一致していた。このことから、母親からの促進は、父親にとっても理解しやすいように思われた。また、父母いずれの語りにおいても、促進はその後の父親の関与行動を高めていることから、父親の言動を子どもに伝える方向の仲介が父親に認知されていないとしても、夫婦ペアレンティングが抑制される懸念はない。もし父親が母親の隠れた仲介を知ることになれば、夫婦ペアレンティングはさらに調和的になるだろう。このことは、夫婦ペアレンティング調整行動に関する定量的調査の分析において、母親の促進的な行動は父親の認識する母親の促進行動と高い相関を示すばかりではなく、父親の認識がその後の父親から子どもへの関与に有意な正の影響を与えるという結果と一致している(加藤・神谷, 2019b)。

それに対して、父親に向けた批判の場合、その後に母親が子どもに対して父親のフォローを行っていることを、父親が知ると知らないのでは、家族関係は大きく違ってくるのではないかと思われた。父母間の伝え合いによって、母親の仲介・仲裁行動が父親に通じれば、母親の批判的調整行動

の真意も伝わり、むしろ親和的な夫婦ペアレンティングにつながるだろう。しかしその機会を逸すれば、父親には母親から批判された記憶だけが残ることになる。家族がどのようにつながりあっているのかという、子育てをめぐる家族機能の全体像を共有するには、父子関係と母子関係をつなぐ関係として、(夫婦役割間ではなく)父母役割間のコミュニケーションの質が問われると言える。

問題と目的に述べたように、青年期の子どもを対象とした先行研究は、母親が子どもに父親に関する肯定的なメッセージを伝えたり、父子間での仲介的な役割を果たすことが、父子の結びつきを強めるための調節機能となることを示している(戸田ら,2011; Celik, 2019)。これに加えて本調査では、批判に関しても、母親は多様な方法をもって仲介を行っていることが明らかとなった。「子どもの前で父親を制止する」、「子どものいないところで父親に意見する」、「父親のいないところで子どもに父親の意図を伝える」等は、父子関係が緊張状態となった際、子どもと父親の両者に配慮しながら、双方の真意や状況を伝える行動である。一見、紛争解決のための第三者的仲裁役割のように見えるが、現実には、家族の一員として、家族の歴史を踏まえ、日常的な家族関係を背景とし、その後も続く家族生活の維持をも考慮した、複雑で多彩な作業であると言えよう。

このように、母親の調整行動をひと続きのものとしてとりあげると、批判は、必ずしも相手を否定し非難することに留まるものではなく、むしろ促進的となる場合がある。例えば、母親からの批判的な割り込み行動は、否定的な意図からではなくその場を収めるためだと理解する父親の語りの例や、母親が子どもを叱っている場面で、同調して叱った父親が母親から批判され、親としての役割を振り返った例もみられた(加藤・神谷, 2019a)。つまり、夫婦ペアレンティング調整における批判は、単に“批判”として機能する場合もあるが、母親の批判の背景、批判を受けた父親の反応やその後のコミュニケーションを一連のつながりとして見ることで、家族機能の違った側面が見えてくるということである。この想定は、母親の促進行動と批判行動には有意な相関がみられない、すなわち批判と促進は一軸の両極ではないという先行の定量研究結果(加藤・黒澤・神谷, 2014)と矛盾しない。

しかしながら、全体的な傾向としては、夫婦ペアレンティング調整行動のうち、母親からの促進は父親による子どもへの関与を高め、批判は関与を損なうことが示されていることも忘れてはならない(加藤・黒澤・神谷, 2014)。母親の批判が夫婦ペアレンティングに及ぼす影響については、夫婦としての関係、母親のコミュニケーションスキル、父親の感受性、子どもの反応や、父子、母子関係のダイナミクスを念頭に置いて、さらに詳細に検討していく必要がある。

最後に今後の課題を述べる。本研究は、日本の思春期の子育て家族における夫婦ペアレンティングの多彩な事例エピソードの抽出には成功したが、それらの機能の厳密な分類と特定のためには、サンプル数が少ないことが限界である。加えて、協力者の就業状況はパートタイム就労が5名、フルタイム就労は1名であった。すなわち、母親が主たる養育者として普段の子育てに携わる家庭が中心となった結果、フルタイム就労夫婦の子育ての実態は拾いきれなかった可能性がある。今後は本稿における結果を仮説として、サンプル数を増やし、フルタイム就労夫婦に見られる夫婦ペアレンティング調整行動をも含めて検討することが課題となる。第二に、本研究では、思春期という子

どもの意思表示に特徴的な変化がみられる時期を確認してきたが、子どもが思春期に至るまでの期間に、父母は如何なる夫婦ペアレンティングを行っていたのかと併せて考察していくことが求められる。これは、子育て歴というものを、父親、母親、子どものいずれもが関与しながら、家族となっていくダイナミズムとしてとらえる視点である。第三には、母親による夫婦ペアレンティング機能の理解をもとに、さらには父親による母親への調整行動も含めた、子育て家族の相互調整モデルを構成していくことが必要である。そこでは、家族歴という時間軸の中における変化、とりわけ子どもの発達変化要因を含んだ相互作用レベルでの展開が求められる。

(本研究は科研費基盤研究 B (24330191) および基盤研究 C17K04338 (いずれも研究代表者:加藤道代)の助成を受けた。)

【文献】

- Celik, H. (2019). The mediator roles of mothers in father-child communications and family relationships. *Eurasian Journal of Educational Research*, 84, 135-158.
- Fischer, C. S. (2002). 友人のあいだで暮らす(松本康・前田尚子訳). 未来社.(Fischer, C. S. (1982). *To Dwell among Friends*. Illinois, U. S. A. : The Univ. of Chicago Press).
- 平山聡子(2001). 中学生の精神的健康とその父親の家庭観との関連:父母評定の一致度からの検討. *発達心理学研究*, 12(2), 99-109.
- 稲葉昭英(1998). ソーシャル・サポートの理論モデル. 松井豊・浦光博(編), *人を支える心の科学*, 151-176. 誠心書房.
- 板倉憲政(2013). 家族内の直接的コミュニケーションと間接的コミュニケーションの関連性—家族満足度との関連性に着目して—. *東北大学大学院教育学研究科研究年報*, 62(1), 273-282.
- 加藤道代(2007). 子育て期の母親における「被援助性」とサポートシステムの変化(2). *東北大学大学院教育学研究科研究年報*, 55(2), 353-370.
- 加藤道代・神谷哲司(2016). 夫婦によるコペアレンティングとは何か. 個と家族を支える心理臨床実践Ⅱ *家族心理学年報*, 34, 136-144.
- 加藤道代・神谷哲司(2019a). 思春期の子どもをもつ母親の夫婦ペアレンティング調整—父親の語りから—. *東北大学大学院教育学研究科研究年報*, 68(1), 121-142.
- 加藤道代・神谷哲司(2019b). 子どもの外在化/内在化問題行動が父親の育児行動に与える影響—縦断データによる夫婦ペアレンティング媒介モデルの検討. *日本発達心理学会第30回大会抄録集*, P589.
- 加藤道代・黒澤泰・神谷哲司(2014). 夫婦ペアレンティング調整尺度作成と子育て時期による変化の横断的検討. *心理学研究*84, 566-575.
- 黒澤泰・加藤道代(2014). 子育て夫婦における関係焦点型コーピングの本人効果と配偶者効果. *東北大学大学院教育学研究科研究年報*, 62(2), 103-117.
- 戸田弘二・牧野高壮・菅原英治(2002). 青年期後期の家族関係と精神的健康及び精神的・身体的不適応との関連. *北海道教育大学教育実践総合センター紀要*, (3), 221-233.
- Wellman, B. (2007). The network is personal: Introduction to a special issue of social networks. *Social Networks*, 29, 349-356.

Mothers' Coparental Regulation in Families with Adolescents : Semi-Structured Interviews with Mothers

Michiyo KATO

(Professor, Graduate School of Education, Tohoku University)

Tetsuji KAMIYA

(Associate Professor, Graduate School of Education, Tohoku University)

The purpose of this study was to describe how mothers regulate fathers' involvement in adolescent rearing. Qualitative data were obtained from semi-structured interviews with six Japanese mothers of adolescent children (aged 14-15 years) . Mothers were asked to describe their coparental regulatory behaviors (encouragement and criticism) regarding the fathers' involvement with their adolescent child/children. According to the results, mothers' encouraging behaviors included "speaking to the father on the child's behalf," "arranging father-child activities," "consulting the father in child-rearing," "showing respect for and asserting the father's position in the family," and "thanking the father for his involvement." On the other hand, mothers' criticizing behaviors included "checking and modifying the father's behavior toward the child," and "arbitrating and/or mediating father-child relationships." Furthermore, it was found that the mother's arbitration and/or mediation in the father-child relationship occurred even in situations invisible to the father. Thus, while the mother's encouragement allowed the father to learn about how the children were being raised in harmony, her criticism suggested that it was hard for the father to grasp the mother's meaning or intention.

Key words : coparenting, mother's mediation, father's involvement, encouragement, criticism